きっず Kids

Vol.50　2019.７.10発行

感謝！きっず発刊50号

子供ホーム園長　緒方健一

慈愛園が創立１００周年を迎えるこの年、きっずも１９９１年の初刊から50号を数えました。発刊当時慈愛園には乳児、子供ホーム合わせて１００名程が７つのホームで暮らしていました。子どもたちは職員や仲間との日々の営みの中で、人としての信頼感や生活習慣、多くの知恵を培いました。

ボランティアの皆様には長きにわたり物心両面にわたるご支援をいただいたこと、何よりも交流を通して豊かな情操を育んでいただきました。心より感謝申し上げます。

きっずのバックナンバーを辿りますと、写真も多用され慈愛園の30年が一目瞭然です。子どもたちの暮らしや活躍の様子、地域やボランティアとの交流、変わりゆく園内の建物、熊本地震などの自然災害、職員の働き、天国にいる「ジロー」はしばしば登場します。潮谷総一郎元園長のご逝去の特集、幸ちゃんの国際養子縁組、潮谷県知事誕生、皇族のご訪問等々多くの歴史的なエピソードも満載です。

発刊から約30年、社会の動きや変化に連動して子どもたちの生活スタイルも激変しました。今、日本では少子高齢社会が到来し家庭や地域社会も脆弱になりました。あわせて予測のつかない自然災害や事故、悲しい虐待事件も後を絶ちません。子どもたちを守り育てるための手立ては喫緊の課題です。一方では働き人の確保や育成、権利擁護も切実な課題となっています。これらの時代の要請に応えるべく、慈愛園は創立１００周年記念事業として里親支援、家庭福祉相談、地域の居場所づくりを進めています。皆様方には今後とも慈愛園の子どもたちへのご支援をいただきますよう心よりお願い申し上げます。

慈愛園の新しい歩みに向かって　～感謝とお願い～

いつも慈愛園乳児ホーム・子供ホームの子どもたちのために物心両面にわたりたくさんのお支えをいただきありがとうございます。殊に、百周年を迎える慈愛園のための特別募金に多くの方々のご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。2018年７月から始められた法人の特別募金は、次の３つの新たな動きのために用いる計画です。

①里親支援:すでに「きらきら」として稼働しています。
②家庭福祉相談所：まもなく再稼働する予定です。
③地域の方も含めた障がい者・高齢者・子どもの集いの場の計画を進めています。

ここまでたどり着きましたのも、ひとえに、慈愛園の働きを覚えてくださる皆様の温かいお心によるものと職員一同身が引き締まる思いです。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

２０１９年度　事業計画

子供ホーム　（今年度重点項目）

Ⅰ　事業計画
1．子ども支援
① 子どもたちの生活の質（QOL）の向上
（くらし向上委員会）
② 子どもの権利擁護の推進
（安全安心委員会・クローバーの会）
③ ケアニーズの高い子どもの受け入れ体制の整備
④ 独り立ちを促していく支援と「実家」的機能の強化（自立支援委員会）
⑤ 子ども支援をすべての職種で支える協働体制
2．　施設管理・運営
① 園内とホームの環境整備を年間計画に基づき実施
② 業務の省力化、子ども支援内容の精査、行事、会議の精査
③ 就労環境の整備と職員の福利厚生の充実
年休消化率を高め５日連休を実現
3．里親支援
① 里親支援専門相談員の働きの保障
② 養育家庭センター「きらきら」の活用と里親サロンの開催
4．法人１００周年事業　ホームカミングデー（卒園者会）の開催と記念式典への協力

Ⅱ　福祉人材確保・育成
1．研修計画の適正化。各種専門研修への派遣
2．実習指導を充実させ入職への動機付けを図る
3．新養育ビジョン推進における人材確保・育成プランの作成

Ⅲ　非常災害対策計画
1．「慈愛園子供ホーム非常災害対策計画」の周知
2．幹部職員の防火管理研修受講

Ⅳ　地域福祉への貢献、地域の子育て支援
これまでの地域福祉活動の継承と法人の100周年事業への協力を行う。

Ⅴ　財政計画
1．定員の減少に伴い、園内ユニット化推進、専門職採用による職員数確保
2．勤務の適正化を図り、超過勤務発生を押さえる仕組みを作る
3．事業費支出を精査し特に水光熱費と食費についての適正化を図る

Ⅵ　施設整備中長期計画
1．中期計画（～2024年）
① 全定員規模を50名程度まで縮小。全ホームを小規模ユニット化
② 家庭福祉相談所、地域の居場所づくり（法人事業）
③ 児童センター解体計画。機能の継承と代替場所の計画
2．長期計画（2025～2030年）
① 新養育ビジョンに基づく施設整備
② 既存ホーム建物の整備、児童センター跡地の整備（法人事業）

乳児ホーム

1　新規事業の構想及び計画
今年、開所した「養育家庭支援センター」の積極的運営は来年度の目標として掲げたい。現在の里親サロン主体の利用に留まることは今後、支援センターの形骸化につながる恐れがある。最終的には「居場所機能」としての活用を目標として地域開放も視野に入れたい。

2　乳児ホーム保育士会と専門部会
かなり速いスピードで専門部会が定着してきた。内部研修については今後、地域福祉活動が出来るように本園スタッフの派遣が最終目標である。小さな地域に対しての子育て研修等が出来るように今後もスキルアップを望みたい。

3　職員目標管理、コンサルテーション体制について
コンサルテーションについては前年度同様に行った。中長期計画作成時期に（３ヶ月毎）各職員に対して養育内容のアドバイスを頂いている。インリアルについての助言も心理士に介入して貰っていることでスタッフとしては、より具体的な計画が可能となっている。職員目標管理はなんらかの形で客観的な効果測定方法を考えなければならない。

4　2019年度事業計画の骨子
・法人百周年準備・実行
・法人の新たなあり方検討に事業所として参加
・保育士会、専門部会の強化
・熊乳部会研修当番、九州乳児福祉協議会研修当番
・ミーティング内にてＳＶを行う

5　施設整備等の中長期計画
①屋上防水工事　②ベッドの購入　③玄関消毒機器購入　④哺乳瓶消毒乾燥庫購入

乳児ホームの暮らし

【施設長挨拶文】
　今回はあらためて「慈愛園乳児ホーム」の子ども達の生活と事業内容のご紹介をしたいと思います。慈愛園設立時頃に「1918 年にネルセン夫人（当時の慈愛園設立メンバー夫人）が瀕死の乳児を預かった」と記録に残っている通り、慈愛園乳児ホームは慈愛園の歴史とともに 100 年を迎えることとなりました。我々は常に子どもに向き合い、保護者と子どもの成長を共感しあえる養育を目指しています。先代の施設長達が行った様々な改革を止めることなく、これからも活気に満ちた施設を目指し努力していきますので、今後とも皆様のご支援をよろしくお願いします。

【事業内容】
施設種別－児童福祉法 37 条による乳児院
　何らかの理由により家庭で育てられない児童（0 才から概ね就学前まで）を養育し、保護者等に対し子育てに関わる相談、その他の援助を行うことを目的とする児童福祉施設。

【養育基本目標】
・命に対し謙虚になる。
　存在として与えられている命に対し感謝し、その命の前で仕事を行っている自覚を持つ。
・子ども達の権利擁護者となる。
　ワーカーとして利用者の真の代弁者（アドボケイター）となることに努める。
・専門者として、常に客観的であれ。
　私欲や都合ではなく、常に自分を俯瞰（ふかん）し、正しい判断が出来るように努める。

　日本の乳児院の歴史の中でも初めて「担当制（ケースマザー制）」を導入した施設です。担当児の自立支援計画をケースマザーが発達診断を行った上で作成、全体協議し、児童の個別に応じた養育を提供します。ビデオ分析を行い、客観的な関わりの中からアタッチメントの再構築を目指します。

【子供達の生活】
　生活時間は基本的に二つのグループに分かれますが、あくまで個々のタイミングで生活しています。

【その他の活動】
「もうすぐパパママ教室」
　年 4 回開催しています。もうすぐお子さんが生まれる家庭に対しての赤ちゃん教室。本園の赤ちゃんの豊かな表情やしぐさに触れ、抱っこや授乳を体験したり、実際に離乳食を食べてみたり『百聞は一見にしかず』です ！ 日曜開催ですので、パパの参加も大歓迎です。

「病児保育デイケアエーネホーム」
　お子さん自身の感染等によって、保育園通園、小学校通学が困難なお子さまを保護者に代わってお預かりする事業です。どうしても、お仕事やご家庭の都合で、家庭での養育が出来ない時などにご利用下さい。
「ショートステイ・トワイライトステイ」
　乳幼児を持つ、その家族の病気、冠婚葬祭、出張等のため一時的に家庭で養育をすることができない、または家族の精神的・身体的な負担の軽減等を図るために、短期間入所（1 週間程度）の養育を乳児院で受けることができるサービスです。
「里親支援」
　本園から里親委託された児童、地域に住む委託児童を持つ里親に対するサービス。養育家庭支援センター「きらきら」でのサロン開催、日常の相談等に専門職員が対応します。

委員会紹介

新しく立ち上げました

ＩＴ推進委員会

感謝！卒園生嶺野さんと富士通株式会社からパソコンを寄贈

2018年11月に、慈愛園の大先輩であり、第一線でご活躍されている現㈱アニモ代表取締役社長嶺野和夫さん（元富士通社員）と富士通株式会社から、慈愛園に18台ものパソコン（以下、ＰＣ）の寄贈があり、そのためのセレモニーがありました。

これからの情報社会で子ども達が少しでもＰＣに触れ、創造性を養ってほしいとのことで、富士通の最新モデルＰＣを頂きました。また寄贈されたＰＣを園で活用していくため、アドバイスをして下さるＩＴの専門家であるたくさんの方々がサポーターとなり、支えて下さることになりました。

セレモニーでは子どもたちにＰＣの活用方法について講義もして頂きました。また、嶺野さんが富士通でどのような仕事をしてきたのか、「そもそもＰＣとは何か？ＰＣで何ができるのか？」といった専門的な話まで、同じ慈愛園で育った嶺野さんからのお話はとても夢があり、子どもたちの心に大きな刺激となったことと思います。

潮谷義子理事長から「これをきっかけに園から第二のビル・ゲイツが誕生してほしい」との挨拶もあり、このＰＣが子どもたちの良い刺激になるように活用していきたいと感じました。

これを期に子ども達が身近にＰＣに触れる機会を保障し、同時に慈愛園子供ホームのＩＴ環境を整え活用できるようにするためＩＴ推進委員会を立ち上げました。メンバーは各ホーム職員や心理士、家庭支援専門相談員で構成されており、隔月で活動を行っております。主な活動としては、嶺野さん・富士通から頂いたＰＣの活用、子ども達が使用する情報端末の運営方法やルール作り、現在毎日の子どもの記録として使用している情報共有支援システムの現状や問題点を把握し改善していくことです。

慣れない分野ではありますが、子ども達に負けないように少しずつ勉強していきたいと思っています。

紗栄子さん ありがとう！

東京ガールズコレクション

2019年4月20日

出会い、夢ふくらむ

紗栄子さんは熊本地震直後から支援と交流を続けてくださっている

東京ガールズコレクション（TGC）に行ったよ

Oさん（高校3年生　女）

私はTGCに行って、日本にこんなにも輝いている人たちが存在していたということに感激しました。私は、小学生の頃からモデルの藤田ニコルさんが大好きで、自分もこんな風になりたいと思うようになり、洋服やメイクにも興味を持ち始めました。その藤田ニコルさんに会えたことがとても嬉しかったです。最初、会えると聞いた時は飛び上がって喜びました。当日は、いつも以上に綺麗にして行きました。ステージに出てきた時は、何も考えられずに思いっきり叫びました。周りのモデルさんたちも輝いていたけれど、藤田ニコルさんは物凄く綺麗で感動しました。私の中で藤田ニコルさんの存在はすごく大きいので、TGCの招待をしてくださった紗栄子さんには本当に感謝でいっぱいです。TGCに行ってからは、自分のモチベーションが上がりました。私は、藤田ニコルさんのSNSを見てダイエットをしています。いつも中途半端で諦めていたけれど、色々なモデルさんを間近で見て努力していると感じたので、今では諦めずに継続しています。今年TGCに行けたことで改めてモデルさんの凄さを知り、コーディネートやメイクなどの勉強になりました。紗栄子さん、本当にありがとうございました。

慈愛園と紗栄子さん

タレントの紗栄子さんが東京ガールズコレクションに子ども達を招待してくださいました。当日も当園の子ども達とふれあう時間を作って下さり、気さくに話し、招待チケットを手渡ししてくださいました。子ども達もおしゃれをして出かけ、ランウェイを格好よく歩くモデルさんたちを観て、目を輝かせていました。また初めて観るランウェイで歩くモデルとしての紗栄子さんは圧巻でした。今回のこの貴重な時間は、子どもたちが新しい文化に触れ、個性を育む良いきっかけになったようにも感じます。このような経験を与えて下さった紗栄子さんには、心からの感謝の気持ちでいっぱいです。　　田邉真実

熊本工業高校のＳＰＨ事業

2018年度から行われている県立熊本工業高校の「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（ＳＰＨ）事業」として今年度は慈愛園がその活動の場所となっています。

現在、土木科による園内道路の整備、花壇づくり、危険遊具の点検と撤去、ホーム前の段差の除去などの実習が入っており、先日は震災で被災したパウラスホームの犬走りの補修をしていただきました。子供ホームでもなかなか手つかずのところもあり、実習には本当に感謝しています。

土木科には年間を通して活動していただき、今後は電気科も園内の電気関係の点検や整備をしていただく計画です。

編集後記

記念すべき「きっず」Vol.50をお届けします。1991年からたくさんの子ども達の暮らしや地域との関わりをお伝えしてきました。これからも変わらず子ども達の楽しい笑顔をお伝えしていきたいです。目指せ100号!!

乳児ホーム・子供ホーム新任職員を代表して

新任です！よろしくお願いします

慈愛園子供ホーム児童指導員　吉永 早希

私が児童養護施設の職員を目指したきっかけは大学の講義です。最初はスクールソーシャルワーカーを目指していました。しかし、講義で観たテレビ番組で児童養護施設の職員が働いている姿を見て感銘を受けました。そして、私も子どもと深く関わる仕事がしたいと思い児童養護施設で働くことを志しました。働き始めて自分の課題が沢山見つかり悩む日々です。そんな時、ホームの先生方は優しく指導して下さいます。私も、そんな先生方のように慈愛に満ちた職員になりたいと思いました。

また、子どもたちがより良く過ごせるように全力を尽くしたいと思います。未熟者で先輩方にはご迷惑をお掛けすると思いますが、何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

きっず応援団 寄付者名

（2018年４月～2019年３月）
（順不同・敬称略）

2018年度の財的支援・物資の支援をいただいた方々のお名前を記載しております。たくさんの応援をありがとうございました。大切に使わせていただきます。なお、慈愛園創立100周年へのご寄付をお願いした関係で、この名簿に記載のない方々もおられます。お含みおきください。ご支援いただいたみなさまには、心よりお礼申し上げます。

＜あ行＞ 大橋謙策　乙丸好美　安達均　植野堀洋　石川光男　岡村泰治あじさい食堂　植田啓司　鵜川弘行　緒方美智子　飯田君子　荒木久美子　今村恵美　江村英子　上羽豊子　石井克明　小澤あゆみ　UAゼンセンゆめマート　飯田善彦　大沢海苔　上野　桂　NPOエンジェルサポート　伊豆永ハル子

＜か行＞ 小崎愛子　神水幼稚園　熊本眼科医院職員一同　加藤晃一　熊本東南ロータリークラブ　神水教会婦人会　神水教会壮年会　九州労働金庫　加藤一雄　熊本県遊技業協同組合　KMバイオロジクス労働組合　甲斐有記　久保田恭子　熊本有機農産株式会社　後藤建一　くまモン　九州アイスクリーム協会　熊本県みそ醤油組合青年部　唐木淳至　株式会社弘乳舎　熊本藤富保育園　柿塚純男　カーブス（株）　神山俊信

＜さ行＞ 関口勝子　添島正和　角本浩　澤田ヒサ子　慈愛園老人ホーム互助会　水前寺タクシー　境正子　砂取校区民生委員協議会　庄野元　白鳥哲　境克彦　潮谷義子　斉藤久昭　シスケン(株)　杉谷千佳子　坂本美穂　坂口義一　新和（株）　酒井瞳　紗栄子　砂取小学校

＜た行＞ 建山賀奈子　竹熊妙子　ダスキン熊本　髙濵畳店　田中栄子　鶴屋クリスマスキャンペーン　東京エレクトロン九州　ダスカジャパンクアウテモック　竹原幸子　天竺株式会社　田上貴資　東海レジャー（有）　谷口あけみ　田村智加子　田中善彦

＜な行＞ 野口展男　日本福音ルーテル大岡山教会学校　中村幸子　中尾桂子　日専連ファイナンス　中満岳間製茶　野口美智子　海苔で健康推進委員会　中村としえ　日本鏡餅協会　子出藤農園

＜は行＞ 藤江京子　本坊雄一　平田満　村瀬彩美　肥後化学白蟻研究所　不二千恵子　広石美智子　藤井和也　ベッカライ・ブレッツエン　浜田美智子　バーク・ウィリアム　東和奏　豊栄商事（株）　ヒライの弁当（株）　東仁子　藤岡秀和　濱忠臣　ほっともっと　フィリップモリス熊本　フードバンク熊本　ベンチャークラブ

＜ま行＞ 三戸満佐子　前田良子　松浦容江　村上真理　松尾興和　光永フーズサービス　宮田京子　村上優子　村上利佳　室津眞佐子　ももち浜クリニック　村瀬直久　松井泰志

＜や・ら行＞ 吉村キャロライン　吉岡まこと　山﨑正和　横井茂夫　吉田明弘　山内雅弘　吉田明功　米田博之

＜わ行＞ 渡邉弘忠

発行・慈愛園きっず応援団　発行人・光永元郎　編集責任者・慈愛園子供ホーム　緒方健一　〒862-0954　熊本市中央区神水一丁目十四番一号　慈愛園内　電話096-383-3509